

評価計画		評価指標結果と評価						自己評価		学校関係者評価				
教育目標	目指す生徒像	育成を目指す 資質・能力	目標達成のための特色ある取組	評価指標例	目標値	評価値	評価値	評価		○成果と▲課題	改善策	評価	コメント	
					[a]	[b1] <定時>	[b2] <通信>	隠岐協力校	定時制					通信制
生徒一人ひとりが、「自分らしい生き方をデザイン」する力の育成	・主体的に学ぶ意欲をもち、自然や文化を愛し、自分と多様な他者とともに大切にできる	1 (I)学習意欲の向上・(II)学力の向上・(III)キャリアプランの明確化	1) 多様な学習ニーズに応える 【今年度の重点施策】 a) ICTを活用した授業の公開、効果的な実践の共有 b) 観点別評価を利用した授業改善、学習環境の整備 c) 教材のルビ振り、やさしい日本語の使用等学習環境の整備 d) 新たなカリキュラムや生徒の主体的な学びを支援する図書館資料の収集と提供	全講座の平均出席率(定時)	82% (前期)	84.0%				A	【学習支援・授業改善】(教務部) ○授業公開期間では、ICTを活用した展開をお願いした。授業で生徒に使用させる場面が多く見られた。 ○定期的なICT研修の実施、ICTに関する情報のポータル配信、会議資料を端末で閲覧・共有等、ICTを使う機会が増加した。 ▲今年度はICTを使ってみる段階であり、ICT活用に不安感をもつ教職員もいる。また共有するほど多くの実践例がない。 ▲(定時制)新教育課程の観点別評価は教科内で計画・実施にとどまり、校内での情報共有の場が少なかった。 ○(定時制)学校行事やLHRでの協働作業に参加する生徒が増加し、出席率・単位認定率の向上につながった。 ○(通信制)受講指導や教科指導を丁寧に行うよう心がけ、目標の単位取得率を達成した。 【図書館利用推進】(教育開発部) ○(定時制)教科学習や進路学習等様々な場面で図書館活用を進めるとともに、少しでも本に親しめるように環境整備(多目的ホールに本を展示)、広報(掲示物)を行い、目標を達成できた。 ▲(通信制)「総合探究」のレポート作成での図書館資料の利用が少なかったこともあり、図書館利用が少なかった。 ▲図書館をほとんど利用していない生徒の数を減らす。	【ICT利活用の推進】 ・ICTを活用した授業をチーム・ティーチングで実施することで、まずは教科内で実践を共有する。 【観点別評価】 ・PDCAサイクルを回すために、観点別評価を生徒に還元する方法を工夫する。 ・校内での情報共有の会を複数回設定する。 【出席率の向上】 ・今まで行っている生徒支援体制を継続し、担任、年次会、保健相談部と生徒個々の情報を共有して適切な学習指導・支援を繰り返していく。 【図書館利活用推進】 ・「図書リクエスト」、「図書館オリエンテーション」等を継続して実施する。 ・授業、レポート、進路指導等で、図書館を活用する仕掛けを一層促進する。	B	【学習や進路の指導・支援について】 ・ICT等教育機器を効果的に活用している。 ・学力差、多様な課題を抱えた生徒、一人一人に適切な指導・支援を行っている。 ・進路実現に必要な学力育成に努めている。 【通信制生徒への支援について】 ・通信制のアンケート回収率が低い。もう少し違う方法での評価もできるとよい。 ・通信制の生徒がキャリアデザインを描くための支援として、ZOOMなどのオンライン・ミーティング機能を活用してきめ細かい指導・支援ができることよい。 ・キャリアプランの明確化などに課題がある。生徒からの相談を日常的に受けやすくする方法の検討が必要ではない。 【図書館の活用について】 ・図書館の活用方法をさらに工夫して欲しい。
				単位認定率(定時)	90% (前期)	90.1%				A				
				1単年以上修得した生徒の割合(通信)	75%	76.7%	(69.2%)			A				
				年間で図書を1冊以上借りた生徒の割合(上段:定時)(下段:通信)	35%	46.3%				A				
					20%	17.8%				B				
		2) 自己理解、自己決定の場をつくる 【今年度の重点施策】 e) 地域の社会資源の活用、キャリアパスポートにつながる主体的・体験的な学びの場の充実 f) 個々の進路決定に向けた校内の情報共有および外部機関との連携 g) 定時制課程で通級による指導を実施	就職・進学など進路先を決定して卒業する生徒の割合(3月末)	90%	90.0%	95.3%			A	A	【進路指導・支援】(進路部) ○地域の魅力発見・発信プログラムや進路ガイダンスなど、進路を考えさせる企画を実施できた。通信制課程生徒も「わからない」の回答を除くと86.7%と高評価であり、参加した生徒には有意義であったと考える。 ○共有フォルダに格納している進路情報の更新や、各会議での情報提供をこまめに言い、担任の進路指導を支援できた。 ○ハローワークや障がい者就業・生活支援センター等とのつながりにおいて校内体制が整い、円滑に連携できた。通信制課程生徒も「わからない」を除くと90.9%であり、卒業年次生には情報が有効に伝わったと考える。 ▲(通信制)情報提供が資料配付等で終わらないように、さらに支援の方法を考える。 ▲進路実現に向けた努力に対する自己評価を上げていく。 【特別支援教育の視点】(特別支援教育コーディネーター) ○生徒のニーズ等を踏まえた合理的配慮の実施や通級による指導の実践ができた。 ○外部機関と連携し、生徒支援へつなげることができた。 ▲生徒支援・生徒理解について生徒への個別対応と特別支援教育の視点をもった全体周知について整理し、校内外の関係諸処との一層の連携に取り組む。	【進路指導・支援】 ・(通信制)「碧雲通信」やメール配信だけでなく、通信ミーティングや進路状況報告会などを通じて担任へ働きかけることで、通信制生徒が進路実現に向けた行動をとりやすいように支援する。 ・(定時制)年次会とさらなる連携をはかり、キャリアパスポートや進路希望調査を活用しながら、個々の生徒の状況に応じた進路設計ができる場を充実させる。 【特別支援教育の視点】 ・「みらいデザイン通信」等で学習の様子や特別支援教育関連の内容を教職員へ発信する。		
			提供された進路情報は役立つと感じている生徒の割合	80%	82.6%	66.2%	(100%)		A	B				
			体験的な学習は進路実現に役立つと感じている生徒の割合	80%	92.7%	60.6%			A	C				
3) 多様な人と協働する場を支援する 【今年度の重点施策】 h) 生徒が行っている活動を、ホームページでタイムリーに発信 i) 「みずうみのかぜ」、「FTA」、「同窓会」の活動の中で、協働の場が充実していくように諸会合を運営 j) 地域探究型学習・地域貢献活動の実践と「まなびのキセキ☆発表会」の開催	地域に関連する学習に主体的に取り組む、それを通して宍道町について気づきや発見があった生徒の割合	80%	70.2%	56.3%			B	C	【情報発信】(総務部) ○ホームページで多くの情報を発信することができた。 ○地域交流活動については、「みずうみのかぜ」の事業を計画していく中で、活発に活動することができた。 【地域交流活動・ボランティア活動】(教育開発部) ○(通信)地域について気づきや発見があった生徒の割合は、目標値に達していないものの、昨年度に比べポイント上昇した。 ▲一部の生徒(特に通信制)に限定されている。 ○定時制・通信制ともに昨年度よりも地域活動への参加人数が大きく増えた。これは昨年度よりもボランティア活動の機会の増加に加えて、通信制で周知の工夫(SHR連絡だけでなく、一斉メール配信)を図ったためと考える。	【情報発信】 ・引き続きホームページに多くの情報が発信できるように協力をお願いしたい。また、より情報を得やすいホームページになるよう検討していく。 【地域交流活動】 ・参加生徒の裾野を広げるために、地域学習の活動の様子や魅力をホームページ等で一層発信する。 ・次年度は、確実に実現を目指したい目標値を定時制・通信制に分けて再設定する。	A	【情報発信について】 ・地域への情報発信に努めている。 【地域交流活動、ボランティア活動について】 ・多くの生徒さんに宍道町のことをもっと知ってほしい。地域の活動参加にこれからも期待している。 ・ボランティア活動参加者が増えており喜ばしい。地域の様々な人と出会い、考え方に触れることは気づきや人づくりに良い効果があるので、そうした機会が増えたとよい。 ・地域交流を大切に、社会性や協調性の育成に努めている。 ・地域交流活動に主体的に取り組むために、学校側が改善策として提示している活動の様子・魅力のHPでの発信が有効と思う。		
	地域交流活動の年間実施回数	30回	30項目				A							
	外部ボランティア活動に参加した生徒の人数(年間)(上段:定時)(下段:通信)	30人	88人				A							
		5人	15人				A							
3) 3の育成・(V)人権感覚の涵養・(VI)規範意識	4) 安全で安心できる環境をつくる 【今年度の重点施策】 k) 生徒の規範意識の向上を目指し、マナーアップ運動をはじめとする生活指導の全校体制での実施 l) 人権・同和教育、多文化共生支援の推進、自他をともに大切にする雰囲気醸成を目指した特別活動や教職員研修の実施 m) 情報発信を通し健康管理の意識付け n) 生徒相談体制のさらなる充実、生徒の課題に対する支援 o) 環境美化・環境整備の整備・推進 p) 迅速、丁寧、適切な窓口・電話対応	学校では、悩みや相談に誠意をもって対応してくれていると感じている生徒の割合	80%	83.1%	76.1%	(80%)		A	B	【保健相談・生徒相談体制】(保健相談部) ○スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・教育相談員・スクールサポーターと連携して、生徒の安心・安全確保への支援ができた。 ▲年々増加傾向にありしかも多岐にわたる生徒の個別具体的な困り感への迅速かつ有効な対応が必要である。 【規範意識の向上、自尊他尊感情の醸成】(生徒部) ○挨拶、ルール・マナーについての生徒の自己評価、保護者の評価は全体的には高かった。しかしながら、定時制生徒の挨拶の自己評価に「全くそう思わない」と回答する割合が昨年比へや増加した。 ▲駅の利用のマナーについて 地域の方からご指摘を受けた。 ○目標を上回る生徒が、「自他を大切にすること」の大切さを理解している。他者を傷つけるような言動が一部に見られたが、担任等を中心に迅速な対応ができた。 ○生徒会活動、部活動、多文化共生を目指す取組それぞれについて、生徒が活動できる場を増やすことができ、積極的な行動が見られた。	【保健相談・生徒相談体制】 ・引き続き、関係各所と情報を共有し、連携して具体的な支援にあたる 【規範意識の向上】 ・あいさつ運動、マナーアップ運動を教職員全体で継続していく。 【自他をともに大切にせる雰囲気醸成】 ・生徒の活動機会をつくり、支援することにより、人間関係を作り、達成感や自己肯定感をもつ工夫をしていく。	A	【生徒支援について】 ・生徒の相談体制について、生徒の個別具体的な困りごとへの迅速かつ有効な対応が急務である。地域にできることもあるかもしれない。 ・困り感のある生徒、多様な生徒へ丁寧な指導、支援を行っている。 【あいさつ・ルール・マナーの指導、自尊他尊の雰囲気醸成について】 ・ルール・マナー、他者に対する気持ち、いじめに関して、評価が良く嬉しい。 ・あいさつ、ルール・マナー等さらに向上して欲しい。 ・生徒の意識も高く、このまま継続して欲しい。 ・人権尊重の精神の育成に努めるとともに実践・行動できる生徒の育成に力を注いでいる。	
		挨拶ができ、ルールやマナーを守っていると感じている生徒の割合	85%	87.4%	89.4%	(100%)		A	A					
		自尊感情をもつとともに他者を認め合うことが大切だと考える生徒の割合	90%	91.6%	98.6%	(100%)		A	A					

※評価＝目標値に対する評価値の割合 (A:100以上、B:80以上100未満、C:80未満)

※隠岐協力校生徒は5名回答(在籍13名)